

④ 環境保全に取り組んでいます。

高速道路の事業を進めるにあたっては、地球環境の保全、自然環境との調和、地域や沿道の環境保全に配慮し、人と自然、地球にやさしい道路環境の形成に積極的に取り組んでいます。

新名神では、盛土のり面の樹林化・地域性苗木の植樹やソーラー発電及び建物の屋上緑化などの環境保全対策を実施しています。

盛土のり面の樹林化



樹木には、CO₂の吸収・固定、酸素の供給機能があります。高速道路の建設で失われる樹木を積極的に復元し、大気浄化機能が高い樹木により、樹林化を推進し、自然環境の保全に努めます

地域性苗木の植樹



周辺の樹林から種子を採取・育成した苗木を植樹し、在来種の保全対策を行っています。

(コナラ、アオダモ、イヌツゲ、ニシキツギ等)

ソーラー発電



参考例

料金所や道路照明などの電力の一部として利用し、CO₂削減を図っています。甲賀土山IC、信楽IC、土山SAで実施しています(5~20kw/hr)

建物の屋上緑化



参考例

蒸発作用が強く緑量の多い植物にて緑化することにより、屋内の温度上昇を抑える(断熱効果)とともに蒸散作用により周辺温度上昇の緩和に役立ちます。